

SuMPO 環境ラベルプログラム アドバイザリーボード 議事要旨

日時：2023年7月18日（火）11：00-12：00

場所：TKP ガーデンシティ御茶ノ水 カンファレンスルーム 3E

アドバイザリーボード設置・運営規程（JR-02-03）に基づき、アドバイザリーボードを開催し、下記の協議を行った。

1. EPD 事業と PCR モデレーター制度のご報告

事務局より、2023年度のEPD事業の取り組みとして、「PCR モデレーター制度 2023」・「プログラム外のPCR利用」・「技術委員会（TC）新設」・「Eco Platform への加盟」・「IDEA ver.3.1 対応」について、報告を行った。これらの取り組みは事業者負担の低減・品質向上・国際協調などを目的としたものであるが、当該報告を受け、委員より以下の質問・意見があった。

- 「PCR モデレーター制度 2023」について、ISO14040 と 14044 が基づくということだが、CFP だけではなく多領域での影響評価を想定した PCR になるのか？
→EPD なので多領域が前提となるが、CFP にも対応できる PCR になる。
- 「プログラム外の PCR 利用」について、プログラム内で算定結果に対する第三者検証を受けずとも、PCR 利用が可能になるということか？
→ご認識のとおり。
- 「プログラム外の PCR 利用」について、ライセンス料の支払うのは誰になるのか？
→多様な利用形態が考えられるので、利用形態を勘案した検討を進めている。
- 「技術委員会（TC）新設」にて、EPD での再エネ証書利用の仕組みづくりや炭素国境メカニズム（CBAM）での EPD 利用を検討してほしい。

2. EPD 海外戦略のご報告

2023年度より新設した海外戦略事業部より、「Eco Platform の参加メンバーの主な問題意識」・「海外戦略検討タスクフォースの設置」について、報告を行ったところ、委員より以下の質問・意見があった。

- サーキュラリティーの統合的な手法について、Ellen MacArthur の評価指標などがある。将来的な話としてではなく、建築分野の EPD でも積極的に進めて欲しい
→EPD プログラムオペレーターとしては、算定ツールの多様化というところも目指していく中で、このような先進的な指標も取り入れていきたいと考えている。
- Eco Platform について、参加している団体は、一貫した統合的な方法での循環性と環境パフォーマンスの評価をされているのか？
→現時点では一貫するところまでは至っていない。
- 海外制度との整合性について、CFP の算定ルールなど流動的に動いている認識。第三者検証を受けたデータなのかを問われる機会も増えてきたが、全製品 EPD 取得すると大変。そのため PCR の利用等は重要になってくると感じている。今後デジタルパスポートとの整合性等、日本のガラパゴス状態を避け、国際協調することが重要になってくる。

以上